
第 2 回研修会「徳川義直と春姫」に参加して

山本秀子（正会員）

以前、原史彦先生の講座に参加したことがあり、原先生のお話はとても分かりやすく説明して下さるので理解がさらに深まり、先生の大ファンになりました。今回 AGGN 主催の原先生の講座があると知りすぐに申し込みました。どんなお話が聞けるのかとワクワクしながらその日を迎えました。今回も興味深いお話をたくさん聞くことができ予定の 2 時間が本当に短く感じられました。

講演で初めて知った内容として、「草高」はいわゆる石高（尾張藩 61 万 9000 石）ではなく、米以外の畑で収穫される麦や大豆などを米に換算したものとのこと。また、義直が家臣・寺社に与えた領地宛行状の「黒印状」とは今で言う「給与明細書」、この例えはとっても分かりやすかったです。さらに、「御成り」とは今までは単純に将軍が臣下の屋敷訪問と思っていました。もちろん一般にはその理解でよいと思いますが、ただ義直にとっては「御成り」とは単に将軍をお迎えすると言う意味だけではなく権現様の息子であっても、あくまでも将軍との主従の関係であることを認識させられる状況であること、などがありました。

ところで、とっても興味深かったのは、1615 年

義直と春姫の婚礼に大坂の秀頼から祝いの品がおくられたこと。そしてその婚礼の後すぐに家康、義直が大坂へ向かい夏の陣が始まった。義直の婚礼が家康の居城である駿府城を出る口実だったのでろうかと思いを巡らせました。

また、義直の兄仙千代（家康と側室のお亀との第一子）が平岩親吉の養子になっていたことを知り大変興味を持ちました。側室は子供を設けて初めてその地位が確かなものになるのではないのでしょうか？側室となっても子供がいなければその立場は弱いはず。お亀にとって家康との第一子なのに平岩親吉に養子に出してしまうこと、きっと心の中では同意できなかったのではと思いました。家康と親吉の主従を超えたつながりがあったとしてもお亀にとって養子には出したくない。しかし家康の命に反対して家康の寵愛を受けられなくなったら・・・などなど苦しい心情があったのではと思いました。これはきっと女性の視点からの感想だと思います。（男性の方はどう思われたのでしょうか？）もっともっと原先生のお話聞いてみたいです。原先生の研修会の企画を再度お願いいたします。

第 3 回研修会「八事興正寺ガイド研修」に参加して

大宮みどり（正会員）

員)

久しぶりの対面での研修というので、胸がワクワクしておりました。私たちのグループはベテランガイドである鈴木さんの丁寧な説明を聞きながら、中門を出発して、大仏、五重塔、本堂を経て、かつては女人禁制であった東山城へ入りました。興正寺は我が家の菩提寺でもあるので、30 年来毎年元旦に家族そろって詣でているのですが、東山の地に足を踏み入れたのは初めてでした。

以前は中門前の沿道に多くのお地蔵様が並び、毎月 5 日の「ぽっくりさん」の縁日に訪れるおばあさんたちが、手作りのよだれかけや帽子を着せていたものですが、すっかり様変わりしてしまい、お地蔵様はどこへ？と思っていたら、ありました！東山の佐羅陀庭園の中に、6 体の可愛らしい

お地蔵様を見つけました。よだれかけと帽子は、幼い子供を亡くした母親が、子供が無事に極楽浄土へたどり着けるようにと、お地蔵様に願いを込めたものだそうです。泣ける話ですね！

一方西山の域は男女問わず民衆の参拝も許されて、特に五重塔が建立されてからは庶民でにぎわい、門前には茶屋や宿屋もあったそうです。開山の天瑞和尚が高野山で修行したことから、真言宗のお寺となり、ここ八事は庶民にとって憧れの地「尾張高野」として親しまれて来ました。

最後に閑静な竹林と苔寺に囲まれた「竹翠亭」で美味しいお抹茶を頂きました。中門前に鎮座する大仏様は、今では外国人の観光スポットにもな

っているこの寺の変遷を静かに見守っていらっし
やるでしょう。